

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 31

学校名・団体名	熊本市立城南中学校
HPアドレス	<a href="http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/j/jyona/home/home.htm">http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/j/jyona/home/home.htm</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	「地域」に根ざした総合的な学習の時間
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校の総合的な学習の時間は、地域に受け継がれている文化や伝統、自然環境や人材・施設を生かした体験活動を主体とした特色ある取り組みを行っている。自分が生まれ育った我が故郷への思いと感謝の念を深め、郷土愛に支えられた豊かな感性あふれる生徒の育成、そして、地域との関わりの中から自分の生き方を考える生徒の育成を目指すと共に、平成11年度より続くこの活動を受け継ぎ、故郷を愛し、誇りとする人間育成を目指す。</p>	

## 1. 時期及び内容について

郷土愛に支えられた豊かな感性あふれる子どもが育ち、自分の生き方を考えるきっかけが地域との関わりの中から生まれ、夢と希望にあふれ、いきいきと活動できる時間として、総合的な学習の時間を「ハートフル城南」と名付けている。

3年間を見据えた系統性のある活動の中で、1年生では「校区を調べ隊」として、地域を知る活動を、2年では「校区で働き隊」として、地域を感じる活動(職場体験学習)、3年では「校区を誇り隊」として、地域で極める活動(地域のプロ(講師)の方々からの学び・技を習得、3年間の活動の集大成)を行っている。1年生は週1時間、2・3年生は週2時間を目安として、4月から10月までの活動を行った。

### 【4月から9月】

4月の全校生徒への「ハートフル城南」のオリエンテーションで、学習活動の系統性、実際の内容、3年間の総合的な学習の時間の取り組みについて知る。

1年生は、「自然・環境」、「歴史・文化」、「教育・福祉」、「地域産業・伝統工芸」の4つのコース中で、希望調査を行い、各コースに分かれ、それぞれのテーマをもとにグループを編制した。各グループで、調べ学習を進めていった。例えば、「自然・環境」コースの1グループでは「加勢川の水質について」というテーマを設定し、パソコン、図書室での調べ学習を行い、その後、実際の現地学習を行うために、南部浄化センターへの訪問のアポイントメントを行い、9月に訪問インタビューを行い、地域の川の水質について、現場での多くの学びを得た。「歴史・文化」コースでは「精霊流しの歴史」というテーマで、夏祭りに地域の川で実施される鐘楼流しについて学んだ。生徒たちは、訪問インタビューでより具体的にテーマについて学習を深めた。各グループが学習内容を模造紙にまとめ、9月末にポスターセッション形式で学年発表会を行った。



2年生では、地域の55ヶ所の事業所に協力をしていただき、職場体験学習を行った。昨年度は熊本地震の影響で受け入れ事業所についてもかなり厳しい現状があったが、復興へ向かう状況の中でも、事業所の方々の理解と支援があり、今年度はこれまで以上の事業所に受け入れをしていただいた。生徒たちは事業所の希望調査をもとに、それぞれの事業所を決定し、事業所へのアポイントメントをとり、事前訪問日の決定を行い、実際に打ち合わせを行った。マナー講座を受講し、体験までの事前学習も深め、職場体験本番への意識を高めた。復興活動中の事業所での活動で協力できた事業所もある。懐開世利六菓匠の和菓子店、神宮、消防署など多種多様な職業から自分が選択した事業所で働くという体験学習をさせていただいた。体験後は、個人新聞の作成を行い、3日間の事業所での体験、そして、そこで学んだこと、感じたことをまとめ上げた。

3年生では、「自然探求」、「自然農業」、「伝統芸能」、「伝統木工」、「福祉介護」、「和の文化」、「企画運営」の7コースから、各自がコースを選択し、コース決定後、地域のプロ(職人)からそれぞれの技を習得していった。

#### 「自然探求」コース

講師は、NPO法人みずのとらべる隊をはじめとする緑川流域の環境保全活動をされている団体の方々であり、校区を流れる加勢川の歴史や外来種生物が及ぼす影響、水や川、そして環境の大切さについての学習に加え、歴史文化の学習として地元の加勢川と緑川をつなぐ中無田閘門についての学習、投げ網槽漕ぎの方法、緑川汽水域や河口周辺の環境や生物調査を通して、生物の様子などについても学習した。

#### 「自然農業」コース

講師は、地元農家の2名の方であり、本校近くの畑をお借りして、畦づくりをし、ミニトマト、キュウリ、スイカ、ナス、ピーマンなどの野菜づくりを行った。今年は、別の田んぼでの米づくりの体験も加わり、昨年以上に活動を充実させた。野菜を苗から育て、収穫するまでの様々な作業過程を経験する中で、自然の恵みのありがたさや農作物を育てる苦勞も学んだ。

#### 「伝統芸能」コース

講師は、一般社団法人舞踊団の中村花誠様であり、大太鼓、小鼓などの鼓による演奏を学んだ。和楽器の難しい楽譜の読み方や音源をもとにリズムを学んだ。「供奴」や本年度は本校創立70周年記念の年ということで「校歌」のオリジナル演奏の練習に励んだ。

#### 「伝統木工」コース

講師は、地元「川尻六工匠」の皆様方である。設計、鉄板、建具、電気工業、工務店、竹細工と様々な分野の専門職人の方々の貴重な講話を聞き、また、実技体験をさせていただいた。学んだことの総括として、本校職員室前に設置するための、学級担当棚を製作した。

### 「和の文化」コース

講師は、地元でも華道・茶道教室を開かれている玉真てるみ様と懐開世利六菓匠の「梅園」店主の片岡圭助様である。華道・茶道の基本を学び、お手前やお花の生け方をくり返し練習し、和菓子作りもプロの技を習得した。日本に伝わる文化の作法や美しさも体感した。

### 「福祉介護」コース

講師は、特別養護老人ホームの全面的な協力のもと、職員の方々を派遣していただき、認知症についての講義を受け、認知症サポーターとなることができた。講師のお一人は、本校卒業生であり、中学校での「ハートフル城南」での「福祉介護」コース学習体験者である。生徒たちも講師の方をととても身近に感じ、活動を進めることができた。車いす体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験等の学習を重ね、実際は、施設への訪問を行い、入所者や通所者の方々とお話ししたり、手紙を渡したり、一緒におやつ作りを行い、交流を深めた。

### 「企画運営」コース

講師は、熊本県地域作りアドバイザーである岡裕二様に、10月の「ハートフル城南フェスティバル」に向けて、企画運営に関する講義を受けた。その後、まずは全校生徒へのテーマの募集を行い、テーマを決定した。テーマ「Leave our footprints ～未来へつながる大きな一歩～」として、昨年度の熊本地震を乗り越え、今年度は本校も70周年という記念の時を迎えることができた。これまでの一人ひとりが、今まで歩んできた道の足跡を振り返り、未来につなげていこうという思いを込めて活動をスタートした。各学年の展示、ステージ発表、展示物の配置、プログラム作成、MC原稿作りなど、一つひとつの行程について準備を進めた。

## 【10月】

10月7日「ハートフル城南フェスティバル」(学習発表会)にて、保護者や地域の方、講師の方々をご招待し、全校生徒の総合的な学習の時間で学んだことや教科・特別活動等で学んだことの発表を行った。

1年生は「校区を調べ隊」、2年生は「校区で働き隊」での調べ学習、体験学習を経て、そこから学んだことを新聞やポスターにまとめて展示したり、パワーポイントや劇でステージ発表を行い、学習内容を発信した。3年生は、各コースで学んだことをパワーポイントや実演をもとにステージ発表を行った。「伝統芸能」コースは午後のステージ発表で、多くの観客の中、太鼓や小鼓の素晴らしい和の演奏を成し遂げた。中庭では、「和の文化」コースがお茶席を用意し、お茶をふるまい、早朝からの団子作りで作り上げた和菓子の販売、「自然農業」コースでは、収穫したサツマイモや無農薬米の販売を行った。体育館後方やピロティエの展示スペースでは、「伝統木工」コースの作品、「福祉介護」コースの模造紙での学習のまとめ、「和の文化」コースの生け花などこれまでの学びの集大成を存分に披露した。

## 2. 成果や生徒たちへの効果

全国学力状況調査の質問紙調査の中で、総合的な学習の時間に対する本校の生徒たちの達成感がとても高い。総合的な学習の時間を系統的に組み立てていること、地域の人材を活用していること、生徒達自らが活動内容を選び、調査したり、体験したりするなど、主体的な活動が成果につながっているように思う。総合的な学習の時間の目指す「生きる力」の育成と地域に学び、地域に育まれ、成長していることを生徒達自らが体感できる取り組みは、本校のよき伝統的な学習活動の場であり、誇れるものである。

熊本地震で一昨年は本来の活動が十分にできないこともあったが、それでも、地域の方々、講師の方々のあたたかなサポートがあり、活動を進めることができた。そして、一年後の今年、生徒達は、さらに活動を盛り上げ、復興中のこの地元熊本を元気にしたいという思いをそれぞれ

が持ち続けている。本校の地域は震災で液状化が起き、多くの住居が建て直しの状況にある。そのような地域の状況を見ながら、1・2年生の調べ隊や働き隊も地域の方々とのふれあいも行えた。中学生である本校生徒が、総合的な学習の活動をもとに、さらに地域を愛し、地域のよさを引き継ぎ、地域とつながっていかうとする姿勢を大切にしていってほしいと期待している。生徒の感想の中に、「今まで、地域について深く考えることがなかったけれど、自分の暮らす地域にこんなにも素晴らしい伝統があり、それを自分たちに教えてくださり、とても嬉しかった。これから自分が地域にできることを考えていきたい。」「福祉介護コースでの学びを終えて、福祉介護についてもっと学びたくなった。自分の将来の進路について、真剣に考えてみたいと思った。」というものがあつた。また、講師の方の中にも、「自分の使命として、中学校に関わっていきたい。私が教えられることを、ぜひ、伝え、教えていきたい。」というお言葉をいただいた。これからも地域の大きな支えに感謝しながら、城南中学校の生徒達をしっかりと育てていきたい。

